

瞳の中の記憶

浦添市立仲西中学校 一年
宮城 宇宙

私の目 父の目 母の目

祖父の目 祖母の目

人はみんなそれぞれ

違う目をもっている

私の目には

青い空が映っている

蒼い海も映っている

父の目と母の目には

悲しそうな祖父と祖母が映っている

祖父と祖母の目に映るのは

真っ黒なけむりにつつまれた空

真っ赤に染まる海

私の目とは まったく違う景色

父と母は言う 毎年この時期になると

おばあとおじいの目が

いつそう悲しくなる

この時期になるとあの目が浮かぶんだ

息がつまったような表情で

毎年 おじいとおばあはつるを折る

時折 涙ぐみ つるを折る

ふと 手が止まり涙がつるに落ちていく

静かなときの流れが一瞬止まる

おじいとおばあの顔には深いしわ

そのしわが涙でぬれ より深く影をつくる

二人の目は 遠く昔を映している

その二人を見てきた父と母

そして私

かける言葉など見つからない

かける言葉などなくとも

瞳から伝わる二人の思い

幼い私は

おばあに聞いたことがある

戦争の話

おばあの目は

遠くを見つめ

暗く辛い

悲しみでいっぱいだ

空から降る黒い雨

地面にたまった赤い血

幼い私にも 黒い世界が想像できた

おばあは言う

「あんたが大人になったら

こんな悲劇がおこらないようにするんだよ」

六月 おばあはおじいと祈った

つるを礎へと届ける

あの日亡くした両親や友の名前の前で

語りかける

その瞳は遠くを見つめている

私は今生きている自分がどれだけ幸せか

毎日父と母にだだをこねたり

ちっちゃなことでもけんかをしたり

私はどれほど幸せか

おじいとおばあの目に気づかされた

それに気づいた今

私は 少し成長できたかと思う

それは おばあのためおじいのため

母のため 父のため

自分のため みんなのため

少し変わったのかと思う

緑の木々や蒼い海、青い空

今日も私の目に映る

私をとりまく

すべての日常

これまで以上に

輝いて映る

祖父母の瞳の記憶

それによって大切なことに

気づかされた

私の目に映る日常を

大切に生きてゆきたい